

平成30年度 唐津市立久里小学校 学校評価計画

1 学校教育目標				
豊かな心を培い、夢の実現に向かって、いきいきと活動する子どもの育成				
2 学校経営ビジョン				
<p>1 子どもたちが誰もが「楽しくわかる」「毎日通いたい」と思うことができる久里小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「楽しくわかる授業」の実現、家庭と連携した基本的な生活習慣、学習習慣の定着を図る。 ・豊かな心を持ち、認め合い、支え合い、思いやりのある子どもを育成する。 ・自他の命を大切に、心身ともにたくましい子どもを育成する。 <p>2 保護者・地域が安心して信頼して任せられることができる久里小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある学校づくりを推進し、家庭、地域に信頼される学校をめざす。 <p>3 教職員が毎日意欲をもって勤務することができる久里小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弛まぬ学校経営や教育活動の評価・点検による学校の活性化及び教職員の資質向上をめざす。 				
3 本年度の重点目標		4 前年度の成果と課題		
<p>①全教育活動を通して、基礎・基本の指導を徹底し、学習内容の確実な習得を図ると共に、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。</p> <p>②感動する心と思いやる心、郷土を愛する心を育むとともに、自己肯定感を育み、よりよい生活・人間関係づくりの構築をめざす。</p> <p>③価値ある行事・体験活動を通し一人一人が達成感を味わい、自発的に計画し実践する力を育て、共に支え合う仲間づくりを進める。</p> <p>④子どもの運動習慣を把握し、健康や成長のためには運動が欠かせないことを理解させ、何事に対しても最後までやりとげる心情及び運動習慣の形成に努める。</p>		<p>全体的な評価としては、前年度の重点目標について概ね達成できたと言える。各重点目標については、下記のような状況であった。</p> <p>【①全教育活動を通して、基礎・基本の指導を徹底し、学習内容の確実な習得を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。】</p> <p>学力向上については、県の学力調査でどの教科もほぼ平均値を修めた。これは、児童の思考に沿った授業展開を目指し全校で学習過程の統一したことにより教師側の目的意識が明確になり、児童も主体性をもって交流活動に取り組んだためと考えられる。また、この取り組みについては、91%の保護者から高い評価を受けている。本年度は更に朝の学びの時間を設定し、低学年は基礎的・基本的内容について、高学年は活用する力を意識した問題に取り組んできた。ICTの活用については、昨年度よりさらに職員の活用が進んでいる。全学級が取り組んだ校内研究においてもICTを取り入れ有効に活用した授業が多くみられた。</p> <p>【②感動する心と思いやる心、郷土を愛する心を育むとともに、自己肯定感を育み、よりよい生活・人間関係づくりの構築をめざす。】</p> <p>「あいさつ」「ろう下歩行」「無言掃除」「はき物を揃える」を生活の4本柱として年間を通して取り組み、意識して生活ができるようになってきた。毎月1日に「なかよしアンケート」を実施し児童の様々な思いをすくい上げる取り組みと共に、年間2回のQ-Uアンケートを実施して児童や学級の状況を客観的に把握することにも取り組んだ。以上のことから保護者の96%が「楽しんで学校に登校している」と回答し、児童も「なかよしの友だちがいる」と95%が回答している。本年度は人権・同和教育を推進するために毎月の全校朝会で、教師が人権に関する講話を行い人権について考える機会を設けた。</p> <p>【③価値ある行事・体験活動を通し一人一人が達成感を味わい、自発的に計画し実践する力を育て、共に支え合う仲間づくりを進める。】</p> <p>全校的な取り組みとしてはグループ集会や縦割り班での活動、全校での集会活動などに年間を通して取り組んだ。また、学級では道徳や学級活動の時間に、児童一人ひとりのよさに気付かせたり、友だちとの良い関係に気付くことの大切さなどを授業で取り上げたりした。体験活動では、5年生が農業体験をしたのはじめ3年生がグループホームを訪問したりした。各学年が地域との連携を密にしている様々な体験活動を行った。その結果、保護者の95%が「取り組んでいる」と評価し、児童の95%が「久里地区はいいところだと思う」と回答している。各学年の取り組みが理解され児童も地域のよさを感じていることが分かる。</p>		
5 総括表				
①全教育活動を通して、基礎・基本の指導を徹底し、学習内容の確実な習得を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○活用力研究の深化	・新学習指導要領の円滑な実施につながるよう、また主体的・対話的で深い学びの実現を期した授業研究を進め、活用力の育成を期した校内研究を推進する。	・算数科で「わかった」「できた」と思うことが増えてきたといえる児童を80%以上に上げる。 ・「な・か・よ・し」の学習段階の中にPW・GW・CWを効果的に設定した授業作りをする。 ・GWの進め方の習熟を図り、協働学びの充実を目指す。	・校内研で、以下のことを中心に研究を進める。 ○考える楽しさを味わわせる授業作りの進化(学習過程・時間配分) ○交流活動の定着化(友だちタイム・みんなでタイム) ○振り返りの充実(「よさをみつけよう」「しっかりわかったよ」・適用問題)
教育活動	●学力向上	・新しい時代に対応した学習内容の構築、児童理解に基づく分かる授業を実施する。 ・読書に親しみ、豊かな心を育成する。	・CRT(1～3年)及び、県学力調査(4～6年)で平均値を目指す。 ・家庭学習の目標時間(学年×10分+10分)の達成率を80%を目指す。 ・読書30選の達成率60%を目指す。	・「くりのこタイム」(15分)を設定し、基礎的・基本的な学習の定着を図る。 ・家庭学習の手引きを配布し、保護者への啓発をする。 ・読書を推進する。(さわやか読書・読書30選・図書館祭り など)
②感動する心と思いやる心、郷土を愛する心を育むとともに、自己肯定感を育み、よりよい生活・人間関係づくりの構築をめざす。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・あいさつ、規律ある生活(規範意識)、清掃活動等を徹底させる。 ・人権・同和教育を積極的に推進する。 ・特別支援教育の充実・深化を図る。	・「あいさつ」「ろう下歩行」「無言掃除」「はき物を揃える」を、本校の生活の四本柱として目標に据え、一年間徹底して取り組む。年間を通して達成できる児童を90%にする。 ・全教育活動を通して、人権が尊重される人間関係づくりや、いじめや差別・偏見をなくそうとする心情・態度を育てる。 ・人権・同和教育の視点に基づいた教師の話を通して、人権意識を高める。 ・安心して学習できる支援体制を整える。	・児童の生活カードの項目の中に、「生活の四本柱」を必ず入れて、毎日、継続的に達成できているか振り返らせ、児童への意識化を図る。 ・日常の教育活動全般において、お互いの違いやよさに気づき、自他ともに大切にすることを育む(朝の会や帰りの会、たてわり班活動、グループ集会、人権ポスター・人権標語、平和集会、人権講話、人権教室など)。 ・毎月の全校朝会で教師が人権に関わる講話を行い、全児童で人権について考える機会を持たせる。 ・学習に遅れがちな児童は、特別支援学級担任や級外が個別支援にあたる。
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめを許さない土壌作りと防止対策の充実を図る。	・「なかよしアンケート」や児童のこまめな観察・保護者との面談等を通して、いじめの早期発見、全職員での共通理解、適切な対応に努める。 ・一人ひとりがクラスで楽しい学校生活を送れるようにする。 ・いじめに対する職員の認知力を高めて、いじめの防止に努める。	・毎月1日に「なかよしアンケート」を実施し、児童の様々な思いを素早くすくい上げられるようにする。慎重な対応が必要な場合は、生徒指導協議会で共通理解し、児童の支援に役立てるようにする。 ・クラスの雰囲気や適応してない児童を客観的に把握して、一人一人が楽しい学校生活を送れるように仕向ける(Q-Uアンケートなど)。 ・教師がいじめの残酷さを強く理解することで、児童間のいじめの認知力を高め、日常的にいじめ防止に努める(いじめに関する職員研修)。
③価値ある行事・体験活動を通し一人一人が達成感を味わい、自発的に計画し実践する力を育て、共に支え合う仲間づくりを進める。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○仲間づくり	・特別活動の充実を図る。 ・体験活動を重視する。 ・地域との連携を進め、開かれた学校づくりをめざす。 ・危機管理(災害対応マニュアルの見直し)の徹底と防災体制の構築・充実を図る。	・特別活動の行事を工夫し、ともに支え合う仲間づくりを進めることで、皆との活動が楽しいと思う児童を育てる。 ・学校での行事が好きと思える児童を増やす。 ・家庭や地域の良さを理解し、行事について自発的に計画し、主体的に実践する児童を育てる。 ・災害時に自ら正しく判断し、行動できる児童を育てる。	・グループ集会での仲間づくり、たてわり班での異学年との交流、全校での集会活動などを通して、よりよい人間関係の構築を図る。 ・各教科や総合的な学習の時間では、体験的な学習を多く取り入れ、仲間とともに実感を伴う活動の場を設定する。 ・運動会や久里小フェスタなど様々な行事を通して、地域との連携を密にしていこう。 ・昨年度の反省を生かし、様々な災害を想定し、年間を通して5回の各種避難訓練を計画的に行う。
④子どもの運動習慣を把握し、健康や成長のためには運動が欠かせないことを理解させ、何事に対しても最後までやりとげる心情及び運動習慣の形成に努める。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・運動週間の形成に努める。 ・食育を推進し、健やかな体作りを進める。	・県の「スポーツチャレンジ」に積極的に取り組ませることで、場所を問わない体づくりの運動や仲間作りができるように、体育授業での活動を工夫する。 ・朝食の摂取率95%以上を目指す。 ・アンケート調査をもとに、各クラスで児童の実態に応じた食育の授業を実施する。	・学習カードや体育用具を充実させ、いつでも誰でも使えるように整備する。 ・運動場が整備されたことをきっかけに、マラソン大会、なわとび大会などの実施や県の「スポーツチャレンジ」への積極的な参加を促すことで、日常の学校生活での外遊びを奨励する。 ・年1回以上は、食に関する授業を実施する。 ・給食委員会が中心となり、食事の栄養やバランス等を考える集会を行う。 ・アンケート調査を実施し、児童の実態を把握するとともに、保健だよりや体験授業等を通して、食育の大切さを保護者へ知らせる。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・タイムマネジメントを考え、職務遂行を行う。	・効率的な業務を推進するために、情報共有化を図り、時間外勤務時間が1か月あたり40時間未満の教員の割合を9割以上とする。	・職員会議の議題案等は3日前に出し、あらかじめ目を通す時間を確保する。 ・特定の職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。 ・定時退勤日を週に1日設ける。

●は共通評価項目、○は独自評価項目